

11月のできごと まちかど クリッパ

クッキーとシェイクをクッキング!

苫小牧市の住吉児童センターで25日、「クッキーとシェイクを作ろう!」が行われました。

今回のクッキーはホットプレートを使い、しっとり焼き上げることにチャレンジ。生地を混ぜてひと固まりにするのに苦戦しながら、グループごとに協力して作っていました。

牛乳とマシュマロを使って作った抹茶シェイクと一緒に味わい、楽しいひとときを過ごしました。



▲生地の中にはチョコレートやクリームチーズを入れました

「札幌らっきょ」イデゴウさん講師に 地元食材でスープカレー作り



▲スープカレーの作り方を指導するイデゴウさん

料理愛好家の女性らでつくるグループ「くらしにスパイス」(川崎洋子代表)は札幌のスープカレー専門店「札幌らっきょ」の店主イデゴウさん(49)を講師に迎えた「スープカレー講座」を11日、苫小牧市男女平等参画推進センターで開きました。

イデさんはスープカレーを北海道の食文化にし未来へつなげようと、道内各地で地産地消を取り入れたスープカレー講座を開いています。この日は市内あけぼの町のホクトがキノコを、市内樽前のビクトリーパークが樽前湧水豚の豚肉を提供。野菜類も地元産を使い、「チキンと野菜のスープカレー」のほか、「モヤシとエリンギのスパイス炒め」「豚肉とキノコのカレーじょうゆ炒め」を作りました。

20人の参加者はイデさんの「タマネギはあめ色になるまで炒めると甘みが出る」「スパイスのクミンはカレー以外にも焼き鳥、コリアンダーは焼きそばにも合う」などの説明に、興味深そうに耳を傾けていました。

市内幸町の小笠原郁子さん(58)は、「作る手順は難しくなかったので、スパイスをそろえて自宅でも作ってみたい」と話しました。

イベント通してボランティア知ろう ボラセン・フェスティバル



◀視覚障がい者用のパソコンを操作

苫小牧市社会福祉協議会のボランティアセンター主催の「ボラセン・フェスティバル2017」が18日、苫小牧市民活動センター(若草町3)で開かれました。

市内で活動するボランティア団体を広く紹介し、活動のネットワークを広げようと昨年に続き2回目の開催。

会場では高校生ボランティアや雪かきボランティアなどの活動がパネル展示で紹介されました。ステージでは、大正琴やヒップホップダンス、スコップ三味線などが演奏やパフォーマンスを披露。音声ガイドで画面の状態を読み上げる視覚障がい者用のパソコン操作やりハビリに役立つ木のパズル、ハンドマッサージ、バルーンアートなどの体験ブースも並びました。

道産のジャガイモとニンジン、タマネギを合わせて約600kgを用意し、100円で詰め放題を楽しめるコーナーや、1杯100円の豚汁も200食販売。いずれも売上金は全額、台風や地震などの被災地へ義援金として寄付する予定です。



◀木のパズルを体験する子どもたち

絵本から雑誌までずらり 白老で「本のリサイクル市」

白老町立図書館で23~26日の4日間、「本のリサイクル市」が開催されました。

除籍図書や寄贈図書などを1人5冊まで無料で持ち帰れる、10年以上続く人気の恒例行事。今年も様々なジャンルの書籍が1,574冊が並びました。ふだん図書館を利用していない人でも、このイベントを楽しみに来館する人が多いそうです。

職員らは「いろいろな年代の人に図書館を利用してもらい、読書の機会を持ってもらえたら」と話していました。



▲じっくり本を選ぶ来館者